

■（148）国会が今、「情報」の学習に格好の教材に

国会で審議の進む特定秘密保護法案について、新聞が紙面で声高に主張している。関連記事が読者の目につくように、「ワッペン」と呼ぶタイトルがつく。「異議あり」「国家のヒミツ 秘 無期限」と批判的な内容が並ぶ。新聞社としての訴えが込められている。

新聞は主に、世の中の出来事を客観的に伝える「客観報道」と新聞社や記者、読者の主張を伝える「論」で成り立つ。後者は社説や記者コラム、投書欄などだ。記者は記事を書く際、両者が混同しないように注意する。例えば火事の原因にめぐり合う記者の考えや推測がまじると、どこからどこまでが証拠に基づく話なのか、読む側はわからなくなってしまう。論は通常、紙面をめくった内側のページにあることが多い。それが今回は1面にも登場する。ただ、すべての新聞ではない。この法案をめぐり記事があまり目立たない新聞もある。その扱いの大小も、新聞社の「考え方」の強弱を反映している。

新聞社によって伝え方の違いがある。それを知るのも情報学習の狙いの一つだろう。内容が難しいなら、記事の面積を測ってみる。情報の濃淡が、算数で理解できるかも。(山)